



TITLE:

「名君」 唐の太宗

AUTHOR(S):

F., A.

CITATION:

F., A.. 「名君」 唐の太宗. 東洋史研究 1948, 10(2): 92-92

ISSUE DATE:

1948-05-25

URL:

<https://doi.org/10.14989/138869>

RIGHT:

「名君」唐の太宗

本文の中で、金の世宗が唐の太宗を模範として一生懸命に名君になりたがつた話をしたが、金の世宗はどでなくとも、『貞觀政要』に感心して名君に、あるひは賢相になりたがつたエドモンドを唐の太宗や魏徵・房玄齡は無数にもつてゐる。宋の邵伯溫の傳へた、さういふ關係の話で餘白をうづめよう。

宋の太宗が、ある日、宰相たちに向つて、「朕は唐の太宗と比べて如何ぢや」と尋ねた。みなは「陛下は堯舜でござります。唐の太宗がなんの比べものになりませうか」と答へたところが、李昉だけはさうは言はないで、しづかに次の白樂天の詩を口づさんだ。

怨女三千 放たれて後宮を出で

死囚八百 來りて獄に歸る

太宗はおじぎをして「朕の及ぶところでない」と言つた。

神宗が王安石を呼びよせて翰林學士とし、勢ひこんで新政策の相談をはじめたときに、「唐の太宗とはどの様な君主か」とたづねたところ、安石に「唐の太宗などはつまらない天子で、この様な天子を手本に致されたのでは、やりきれませぬ。堯舜を模範にしていたとかなくはなりません」と、たしなめられた。だが、『資治通鑑』の神宗の御序には、「漢の文帝・宣帝、唐の太宗などは、孔子のいふ▲間然する所なき▼君主である。」と、やはり唐の太宗を買つてゐる。邵伯溫は、この點をとらへて、「王安石は堯舜だなどと大きなことを言つて、傳統の政治をぶつこはしてしまつたが、唐の太宗を輕蔑しかつた神宗や李昉はえらい」といつた意味の評論をしてゐる。

(A・F)